

Tricolore [blanc]

作演出 渡邊一功

登場人物

女 男

舞台上には机と椅子。

机の上にはノートPCと何冊かの数学書。

薄明かりの中、男の姿が見える。

男

……おとしの暮れ、妻を亡くした。十二月二十八日、日曜。その日は朝から撰氏四度の冷たい風が吹いていて、雲が空を覆っていた。彼女が眠りに就いたのは十時五十四分。外では雨が降っていた。病院の窓口で手続きをすませ外に出ると雨はもう止み、雲の隙間から午後三時の傾いた日の光が差し込んでいた。最高気温は十五度六分。夜のニュースでは三月下旬並みの気温だと言っていた。

彼女とは四年前に知り合った。七月二日、晴れ。三十二度を越える夏のさなか、僕たちはクーラーの効いたオフィスビルの十二階で出会った。そのとき彼女はエアコンの寒さを凌ぐためボタンが四つ付いたカーディガンを着ていた。袖に付いた飾りボタンは三つ。それから一年と九十八日が経った日、僕たちは結婚した。十八人の身内だけのパーティー。メインディッシュのラム肉のソースには飾り付けの赤胡椒が六粒乗っていた。そしてその日から彼女が入院するまでの千八十六日

舞台上には女。
妙な格好でくつろぐ。
男が入ってくる。

間、僕たちは駅から歩いて三分、五九・八平米のマンションで一緒に暮らした。
そして今日、彼女が居なくなって三百と八十四日が経つ。

女

あ、おかえり。

男

ただいま……

女

遅かったね。なにしてたの？

男

ん……ゼミの後、生徒と一緒にメシ食って来た。

女

そうなんだ。

男

ていうかキミこそ何してんの？

女

ストレッチ。

男

……そうなの？

女

なんか最近だるいなんて思ったらカラダ動かしてなかったの思い出してさ。

男

だるいって……気分だけだろ。

女

そうだけ。で、何食べてきたの？

男

ん？

女

晩ご飯。

男

ああ。牡蠣。

女

カキ？！

男

え、なに？

女

いいなあ、冬のカキ。フライ？ 生牡蠣？ 炒め物？

男

生だけ……

女 男 女 男 女 女 男
 …… ちょっと何してるの。
 何って、論文。そろそろ仕上げにかかないと。
 なにそれ。
 言ったじゃない。「離散時間における複素数のフーリエ級数的、
 そうじゃなくて。
 じゃなくてなに？
 ……

男
 そう言いながら男は机の上のノートPCを開いて仕事を始める。

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女
 はいはい、私も食べたい。
 はいはい。
 カキが食べたい！ カアキい！
 無理言うなよ。
 じゃあ今度ウチで鍋しよ。カキ鍋。
 僕ひとりで？
 私は見てるから。
 見てるだけだと余計食べたくなるじゃない。
 見てないところで食べられるよりぜんぜんいいもん。
 …… じゃあ分かった。近いうちにカキ鍋な。
 やった。ていうかさ、冬だからいっぱい鍋しようよ、ナベ。水炊き、
 タラチリ、雪ナベもいいな。
 海鮮もね。
 あと豆乳鍋。美味しいんだよ、作り方教えてあげるから。でもとりあ
 えずカキ鍋ね。オツケー？
 はいはい、オツケー。

男
 気にせずPCをタイプする男。
 すると女は男の視界を画面から遮ろうとする。
 しかし直接男のカラーダに触れることは出来ない。

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女
 …… なに。
 そっちこそなに。
 なんって仕事するんだから、
 やだ。
 え？
 話、しようよ。
 だから時間ないんだって。
 ずっと待ってたのに仕事なんてするい。話しよう、ハナシ。

男、溜息。
 タイプをすることを諦める。

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女
 …… 分かったよ。はい、じゃあ今日は何かありましたかあ？
 子供みたいに言わないでよ。
 子供みたいじゃない、駄々こねて。
 だって帰ってくるのずっと待ってたんだよ。少しくらい聞いてくれて
 もいいでしょ。
 分かりました。
 ええとじゃあね…………… 今日はい
 はいはい。
 図書館行って公園寄って商店街歩いて、スーパーに買い物に行きまし
 た。
 そんだけ？

戯曲「Tricolore blanc」全編は、現在オンラインショップ「架空ストア」さんにて取扱中です。続きをお読みになりたい方は架空ストアさんをお訪ねください。

架空ストア

<http://store.retro-biz.com/>

なお売上金は日本赤十字社の「東北関東大震災義援金」に寄付されます。
なにとぞご理解とご協力をお願いいたします。